

先進事例 紹介

「第1回大阪府下救急救命技術研修会」を開催

大阪府 大阪府下消防長会

1 はじめに

大阪府下消防長会では、大阪府内全27消防本部が参加する「第1回大阪府下救急救命技術研修会」を開催しました。

大阪府において平成29年度から指導救命士の認定制度が開始されたことを受け、大阪府内各消防本部に配置されている指導救命士又は指導的立場の救急救命士（以下、「指導救命士等」という。）が主体となって、救急隊員の生涯教育に関する企画・運営に携わり、本研修会が救急救命士資格を有する救急隊員の再教育に相当する研修機会として充当できるように、各指導救命士等が所属する地域メディカルコントロール協議会との連絡・調整を行いました。それにより消防職員（指導救命士等）による消防職員（救急隊員）のための教育研修機会が実現することとなりました。

また、本研修会は出場隊員、又は運営要員（指導救命士等を含む）として参加することにより、大阪府内全27消防本部が参加しました。

2 開催概要

(1) 開催日時

平成30年1月24日（水）

10時30分～13時00分

(2) 開催場所

大阪市消防局 高度専門教育訓練センター

(3) 研修会内容

開会式

開会のことば

人員報告

大阪府下消防長会長 訓示

研修会事務局長 訓練注意

訓練（12隊：3ブース×4回）

閉会式

指導救命士等の総評

大阪府下消防長会副会長 講評

閉会のことば

(4) 出場隊

大阪府内11本部12隊36名

※服装・使用資器材にあっては、各本部で実用しているものとしました。

(5) 運営要員

大阪府内24本部42名（指導救命士等を含む）



開会式の様子



大阪府下消防長会藤井会長訓示の様子

3 訓練概要

(1) 概要

- ・3ブース（A・B・C）同時に訓練を計4回実施。
- ・順位付けを行わない発表会形式。
- ・実技シミュレーション訓練を実施したのち、指導救命士等による進行の下、講評や見学者も交えて意見交換を実施しました。

(2) 想定内容

- ・指令内容「一般住宅において70歳男性、喉詰り疑い、CPA」
- ・現場から病院までの走行時間は約10分。
- ・発生場所は一般住宅の2階で、車両停車位置から現場までは狭隘な道で、直近に停車できていない。

<訓練の様子>



4 開催結果

(1) 人員

出場隊員	12隊36名
運営要員（指導救命士等）	42名
見学者 救急救命士	277名
救急救命士以外	224名

※他の消防関係者や来賓を含めると合計600名以上が参加



講評及び意見交換の様子

(2) 意見交換の主な意見

活動要領	<ul style="list-style-type: none"> ・実施する又は実施した処置や観察の評価を隊員相互に復唱したり、使用資器材をダブルチェックすることで、隊員間の情報共有と事故防止が図られていました。 ・隊長が非常に落ち着いて隊を統制し、時間的な余裕が感じられる中でも迅速に、観察、処置、評価がなされていました。 ・自動式人工呼吸器を現場から活用することで、活動に余裕を持たせるなどの工夫をしている隊もみられました。 ・気管挿管実施後、搬送前にネックカラーを装着したことについて、メディカルコントロールで統一されているものではありませんが、チューブのズレ等を発生させない対策として実施している隊がありました。 ・薬剤の使用期限の確認など、実施者だけでなく他の2名の隊員にも確認を実施した点について、特定行為というものに対する重要性や責任の認識付けがなされている隊がありました。
接遇	<ul style="list-style-type: none"> ・傷病者や家族等に安心感を与えることができるような細やかな心遣いのある接遇を、大阪府内全救急隊でできるようになれば素晴らしいと思います。 ・インフォームドコンセントに際し、しっかりと家人役の目を見て、相手の反応を伺いながら、真に理解を図ろうとすることが見て取れて、優れた接遇の技術が感じられました。
プロトコル	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、アドレナリン投与時の各メディカルコントロール圏域でのプロトコルの違いが勉強になりました。 ・薬剤投与や気管挿管実施時の指示受け要領等で、圏域ごとの差がみられました。 ・各救急隊の活動を目の当たりに比べることによって、プロトコルの違いが救急活動の違いとしてどのように現れるのかを確認することができました。
資器材	<ul style="list-style-type: none"> ・蛇腹管を使用して一人がマスクホールドを両手でを行い、胸骨圧迫実施者がBVMを操作している隊があるなど、BVMの換気方法も様々でありました。 ・自動式心臓マッサージ器を使用した隊があり、3名で活動する救急隊にとって有用なものであると感じました。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・医師ではなく、各圏域の指導救命士が講評を行ったことにより、各プロトコルや使用資器材、活動内容、方針の違いが明らかになり、非常に勉強になりました。 ・小さなお子さんも見に来ており、このように大阪府内の救急隊が一堂に会して行う研修会は、我々の活動が市民に触れる良い機会であると感じました。

5 おわりに

今後は想定の手作りこみや運営要領等について工夫を凝らし、本研修会が大阪の救急隊員の、さらには大阪府民の利益に繋がるよう、これまで以上の救命技術の向上や大阪府内消防本部の連携強化を目指し、継続していきたいと思います。